



題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)

発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubairainsatsu.co.jp>

緊急防災・減災事業債の 延長要望などについて協議

東北地区消防連絡協議会



令和元年度東北地区消防連絡協議会
は七月一八日(木)、山形市「山形グ
ランドホテル」を会場に、東北地区七
県(新潟県を含む)の消防協会から会
長、副会長、事務局員ら四四名が出席
して開催されました。

会議では、各県から提出された要
望事項などについて協議され、新潟
県提出の「緊急防災・減災事業債の
延長要望について」を総務省消防庁
に要望することとしました。

また、本協議会は、来年度宮城県
で開催することが決まりました。

要望事項

緊急防災・減災事業債の延長
要望について 《新潟県》

我が国の自治体消防は地域に密着
した防災機関として、地域住民の安
全・安心の確保を重大な責務とし、

令和元年度全国統一防火標語

ひとつずつ いいね！で確認 火の用心

市民生活にとって大きな役割を果た
しております。

また、南海トラフ地震等の大規模
災害発生が懸念される中、迅速かつ
的確な対応が図れるよう、防災・減
災対策が急務であるとともに、東京
オリンピック・パラリンピック競技
大会などの大規模行事等におけるテ
ロ災害への備えも必要となってお
り、消防に寄せられる期待はますま
す大きくなってまいります。

一方で経済情勢が依然として不透
明である中、年々増大する救急需要
に伴う行政コストの増大等が懸念さ
れ、地方財政が非常に厳しい状況と
なっております。

このような状況下、後年度に交付
税措置のある緊急防災・減災事業債
(地方債充当率一〇〇%、交付税算
入率七〇%)を活用し、消防車両等
の購入、防火水槽整備など、消防の
責務を果たしていくために必要な施
設の整備を行っているところです。

つきましては、地方公共団体の喫
緊課題である防災・減災対策に引き
続き取り組んでいけるよう、令和二
年度までの時限的措置である緊急防
災・減災事業債の延長を要望します。

照会事項

- 一 新日本消防会館建設に対する協
力の対応状況について 《宮城県》
- 二 消防団応援の店について
《福島県》
- 三 消防団活動でのドローンの活用
について 《岩手県》



令和元年度消防功労者
総務大臣表彰

令和元年度消防功労者総務大臣表彰受賞者が発表され、本県からは二名の方が受賞されました。誠におめでとうございます。

この表彰は、「国民の生命、身体、財産を災害から防護するため、郷土愛護の精神に基づき、消防活動、火災予防思想の普及等に献身的に尽力している消防団員及び女性(婦人)防火クラブ員の士気高揚を図る」という目的で行っているものです。

由利本荘市消防団

団長 周 防 彦 宗

秋田県婦人防火クラブ連絡協議会

副会長 安 部 千 鶴 子



消防救助技術秋田県大会

秋田県消防長会

第四八回消防救助技術秋田県大会(秋田県消防長会主催)が六月一日及び七月二日の両日開催され、出場隊員は日頃鍛えた救助技術を競いました。

六月一日秋田県立総合プール(秋田市向浜)で開催された「水上の部」には一〇消防本部から延べ四〇人が、また七月二日秋田県消防学校での「陸上の部」には、一三消防本部から延べ二五七人が出場しました。

「陸上の部」開会式で、伊藤弥真彦秋田県消防長会長は、「日頃の訓練の



成果を十分に発揮して、来る東北指導会、全国大会出場を果たして頂きたい」と挨拶しました。

■全国大会(陸上・水上)
令和元年八月二五日

岡山県岡山市

全国大会・東北指導会出場隊

(全国大会) ◇陸上の部

種 目 名	消防本部名	隊員(チーム)名
ロープブリッジ渡過	鹿角広域消防本部	山 崎 雄 平
はしご登はん	大曲仙北広域消防本部	佐々木 竜之助
ほふく救出	大曲仙北広域消防本部	豊嶋圭人チーム
ロープ応用登はん	大曲仙北広域消防本部	倉橋重吾チーム

◇水上の部

種 目 名	消防本部名	隊員(チーム)名
複 合 検 索	秋田市消防本部	栗 山 和 正

(東北指導会) ◇陸上の部

種 目 名	消防本部名	チ ャ ム 名
引 揚 救 助	秋田市消防本部	越川 俊チーム
	男鹿地区消防本部	吉田宗平チーム
	北秋田市消防本部	木村亮太チーム
ロープブリッジ救出	大曲仙北広域消防本部	小松田知至チーム
	大曲仙北広域消防本部	右谷慎悟チーム
障 害 突 破	横手市消防本部	石沢昌志チーム
	秋田市消防本部	泉谷仁紀チーム
	横手市消防本部	小田嶋理嗣チーム

◇水上の部

種 目 名	消防本部名	隊員(チーム)名
複 合 検 索	秋田市消防本部	栗 山 和 正
	五城目町消防本部	菊 地 航 平
基 本 水 泳	鹿角広域消防本部	大 森 依 志 樹
	横手市消防本部	鈴 木 貴 大 一
	鹿角広域消防本部	高 野 隼 徳
	横手市消防本部	佐 藤 泰 徳
溺 者 搬 送	にかほ市消防本部	三 橋 力 登 一
人 命 救 助	五城目町消防本部	今 川 貴 博
溺 者 救 助	由利本荘市消防本部	真 坂 晃 輔
	男鹿地区消防本部	佐 藤 暁 郎
水 中 結 索	湯沢雄勝広域消防本部	佐 藤 匡 人
水 中 検 索 救 助	大館市消防本部	加 賀 谷 陽 太



第15回 消防団員 意見発表会(一)



佐々木恵子

・にかほ市消防団 部長
・勤続一二年
・郵便局員

今年度から女性部長に就任。温
和な中に芯を感じさせる人柄に周
圍の信頼が厚く、今後の活躍が期
待されます。

「消防団員としての今までの私」 そしてこれからの私」

平成一九年四月、にかほ市で初の
女性消防団員が任命されました。結
成当初は、団員九名。メンバーは若
い方が一人のほか、皆さん同じよう
な年代の方々でした。

有志を募って結成された女性部で
したが、当人たちも何をすればよい
のか分からないうえ、消防団幹部の
方々も何をさせればよいのか、どこ
までさせてよいのか、明確な方向を
見いだせぬまま、とりあえず、やれ
ることをやってもらおうといった流
れで、私たちは進み始めました。

第一期生として活動を始めた私た
ちですが、当初の活動は、防火など
の広報活動、他には大会や出初式な

どの行事の際に進行を補助するなど
簡単なものでした。物足りなく感じ
ていた団員もいたでしょうが、当時
の私にはちよいど良いくらいの活動
量でした。仕事と子育ての両立のほ
か、消防団員としての役割が入るの
ですから、たくさんの活動はなけれ
ばいいなくらいの気持ちでした。

それが分かっているながら入団した
のでしようと問われればそれまでで
すが、母として、子どもや家族を優
先してしまおうが多かったのです。
もちろん、団員として活動すると
決めたからには出務要請があれば、
なるべく参加したいという気持ちは
ありました。

結成から年月が経つにつれ、女性
部の活動内容も増えていきました。
子ども向け防火教室を皮切りに、
防災教室や花火教室、高齢者向けの
教室も開催できるようになりました。
活動の幅が増えたことにより、女
性部の活動も増えていきました。
しかし、その活動も率先して参加
してくれる団員がいたからこそ続け
ることができたのです。

結成当初からも活動を続けてい
るのは、私を含めて三人。他の方々
は、諸事情により退団されていきま
した。私も仕事が忙しい、子供の行事
があるからと、入団後数年間は年に
数回しか活動ができませんでした。
いつそ退団した方がよいのではな

いと、部長や他の団員に相談したく
らいです。

その際、当時の部長から、「今は忙
しくて参加できないことが多くて
も、そのうち時間ができたら頑張っ
てくれればいいんだよ。今は、できる
ときに、できることをしてくれば
いいのだから」という言葉をかけて
いただきました。

結果、皆さんに迷惑をかけている
とは感じつつも、退団することなく
今までやってこることができまし
た。あの時の言葉に、本当に感謝し
ています。

子育ても一段落し、ここ何年かは
時間の融通が利くようになりました。
かつての部長の言葉どおり、ここ
から消防団員としての頑張りどこ
ろだと思っています。あと何年活動
できるか分かりませんが、頑張れる
うちは頑張っていこうと思います。

また、今の拙い話を聞いてくださ
った皆さん。忙しくて自分には無理
だと思っている方がいるかもしれま
せんが、まずは、私たち消防団に興
味を持ってください。と言つても、
この場にいらっしやるということ
は、少なからず興味がある方だと思
うのですが。

今の自分には忙しくて無理と思っ
ていらっしやる方もいると思いま
す。同じ活動は無理かもしれませんが
が、そんな方にもできることはある

はです。できないことを頑張ろう
とするのではなく、できることをで
きる時に始めてみませんか。



本間 満

・美郷町消防団 分団長
・勤続二五年
・自営業

平成五年十一月に千畑町消防団
に入団。日頃から消防団活動に積
極的に参加し、責任感の強さとそ
の行動力から部下団員の信頼が厚
く、四月から分団長を務めていま
す。

「消防団のお仕事」

私が消防団に入った頃の団員の仕
事は、消火活動や火災予防広報等が
主な仕事で、水防訓練や小型ポンプ
操法は、一年に一回練習すれば良い
という認識で何も問題ありませんで
した。

諸先輩から何も言われたこともあ
りませんし、当時まだ千畑町で、大規
模な災害や火災もなく、消防団活動
としては至って普通で、穏やかな団
員生活を送っていたつもりでした。

ある連絡が入るまでは、まさかこ
んな事までやるとは、ここから私の
非日常が始まりました。

班長から、明日、田沢湖のブナ森
に人探しに分団からも数名出すから

行ってくれと言われました。ブナ森は地名で、玉川温泉の近くです。

何よりも、消防団は人探しも仕事だというのは初めて知りました。

翌朝、ワゴン車に数名で乗り込み向かいました。格好は、半纏か活動服かは忘れましたが、長靴、ヘルメット、雨具、昼飯と言われ、用意して乗り込みましたが、先輩方はいかにもプロの山菜採りの出でたちで、何故かスーパリーの買い物をポケットに詰め込んでいました。

現場に到着すると、車の中では冗談を言っただけだったのが急に静かになり、車から出ると流石に秋の山は寒くなっていました。

少し広くなった所に、各分団の団員、警察の方、山を案内できる人、ご家族らしき方々がいるようでした。

その場は空気が重く緊張感があり、火事現場とは違う雰囲気でした。身内の方々は、簡易テント付近で焚火をしながら泊まり込みで捜索しているようでした。

ミーティングが始まり、班編成をしました。団員の数で小隊の人数が決まり、警察の方が隊長で、他に消防団と案内人の十名くらいだったように思います。

捜索方法は地図で予め決めている場所を隊長の指示の下、横一列になり前進し、捜索箇所を地図上で塗りつぶしていくものでした。本部から僅かの距離からスタートしました。

当然ですが訓練したこともなく隊形はすぐに崩れ、しょっちゅう立ち止まって立て直して前に進めません。

隣とは、一、二メートルの間隔があり、直ぐに隣の人が見えなくなり、二次遭難防止には声を掛け合い、隊形を崩さないことが大切だと教わりました。

そうは言っても隊列を困難にしているのは沢や急斜面、特に難儀したのは、竹藪がびっしり生えているので横一列は困難で、そこだけは人の後ろについていきますが、直ぐ後ろだと前の人が掻き分けた竹がもの凄い勢いで襲いかかってきます。

ヘルメットを被っていますが、目や顔を守れないので思わず後退してしまいます。

超密集した竹藪は滑って踏ん張りが効かず、衣服や紐等に絡みつき、抜け出すのに物凄い体力を消耗します。

段々慣れてきますが、それでも二又になった谷間で分かれて入ってしまい、その都度、捜索者の捜索に向かわなければならず、難しいと思います。

少し広い所で休憩となり、ふと先輩たちを見ると片手に買い物袋を持ち少し膨らんでいるので、中身を聞いたらかのこだと言いました。

何と不謹慎なことだと思っていたら、隊長が、高い所にある大きな木を見上げて、あの木の下に良い物が

あるかもしれないので、見てこいと団員に指示しました。

見に行ったが何もなく、警察の人が何故キノコ採りを推奨するような指示を出したのか、その時は解りませんでした。遭難者が何の目的で山に入ったかを考えたらやっと思解できませんでした。これも消防団の大切なお仕事です。



土谷 久男
・横手市消防団 部長
・勤続三十二年
・自営業

温厚で気さくな人柄で地域住民からも厚く信頼されています。自ら主宰する劇団の活動や、スポーツの山内支部長を務めるなど、多方面で活躍しています。

「消防団での活動について」

消防団員になって二三年になりました。今までの活動で、訓練大会以外の活動として、山内特有の、山菜採り行方不明者捜索、運良く自力下山出来た人や、残念なことに発見に至らなかった場合もありました。

雨の中、リュックサックを背負い、山中に入っていくきました。麓では、家族が消防団に必死に「宜しくお願ひします。お願ひします。」と頭を下げます。そんな光景を目にし、改めて自分を奮い立たせ入山し

た記憶があります。

消防団の使命は、「市民の生命と財産を守ること」という強い覚悟で活動しておりますが、東日本大震災では、多くの消防団員が果敢な行動で残念ながら命を落としています。

その時、いろいろなことを考えさせられました。「消防団の活動って何だろう」「自分には彼らのような行動ができるだろうか」「非常事態の時に体が動くだろうか」「適正な判断ができるだろうか」などです。

三年前に山内地区で三棟が全焼し、一人が亡くなる火災が発生しました。亡くなった方をよく知っていたので、とても残念でした。

深夜の火災のため、到着した時には、もう火の海となっていました。消防署前の火災のため、延焼を最小限に食い止めることができました。

あのような火事現場では、本当に無力感を感じました。「消防団として、何ができたのだろうか」と。

東日本大震災の時、私の娘は仙台で被災しました。大学二年生でした。ご存じの通り、電気、水道、ガスの全てのインフラがストップし、建物が壊れ、今まで見たことのないありさまに、娘は「戦争は知らないけど、まるで爆弾でも落とされたような状況だった」と言っていました。

そんな中、一生懸命活動している消防士や自衛隊員を目にして、驚きと同時に「なんで自分の生活を顧み

ずに、昼夜、行方不明者の捜索や復興のために頑張れるのだろう」と思ったそうです。

その娘は今、仙台消防で、六年間の分署経験をし本部指令課にて従事しています。私にとって、彼女の現場経験を聞くのと、賄いご飯を作ってもらうのが一番の楽しみです。

私は就職試験の面接時に、これだけは言いなさいと言いました。それは、「父は地元消防団で頑張っています。その姿を見て、消防士になろうと思います」と。話したかどうかは、定かではありません。

私は、これからも住んでいる所は違っても、消防団活動を娘と一緒に頑張りたいと思っています。



73期 初任教

あきた病院での

研修を終えて

秋田県消防学校

第七三期初任教育入校生は、六月二六日、由利本荘市岩城の「あきた病院」で研修を行いました。この研修の感想文が寄せられましたので紹介します。



大高 瑛文
秋田市消防本部

あきた病院の中の重症心身障害児者病棟を見学・体験させていただいた。初めて聞く言葉であったが、説明を受けて少しは理解することができた。また、車椅子は今まで使用しなかったがなかつたため、説明を受けることができて本当に良かった。体験の内容は、交流・食事見学・病棟説明であった。

交流では患者さん達の車椅子を押させてもらい障害物走のようなことをした。その時に保育士・看護師の方に教わったことが、必ず患者さんに声をかけてから動き始めるとのことだ。重症心身障害児者の方には、コミュニケーションを取る事が難しい方もいたが、返事を返してくれ

る方もいて、その人に安心してもらうためや、意思の確認のために声かけはとても重要であると思った。

食事見学・病棟説明では、看護師の方々の介助を見ることができた。重症心身障害児者の多くは全介助を必要としていて、食事やベッドへの移動を看護師が行っていた。骨密度が低く、必ず二人で車椅子からベッドへ行うなど、患者さんの体に最善の注意を払って行動していたのが印象的であった。

今回の研修で、消防業務に必要な思いやりや知識を得ることができたと思う。

今回の研修で、消防業務に必要な思いやりや知識を得ることができたと思う。



畠山 幹大
大館市消防本部

私は、今回の研修で重症心身障害児病棟北二棟を担当してもらいました。研修の内容は、「自己紹介」「しりとり遊びの補助」「食事の補助」を行いました。

「しりとり遊びの補助」では、担当の患者さんと一緒にしりとりをしながらか絵を描いたり、他の方々が描いた絵が何かを予想したりしました。「食事の補助」では、一人の患者さんを担当し、食事を口元まで運ぶという補助をしました。

この研修から、障害を持った方に対する接し方や関わり方を学ぶこと

ができたと思います。研修を行う前は、どのように接して良いかわからず不安でした。しかし、実際に接してみると、声をかけるとしつかり反応して返事をしてくれて、嬉しいことや楽しいことがあると笑ったりしてくれて、素直な感情を出してくれました。また、声をかけるだけでなく、目を見たり、体に触れたりすることで、更に患者さんがしてほしいこと、してほしいことが伝わりました。

私は、救急係の仕事がしたいと考えています。その中で、障害を持つ方に関わるという場面もあると思います。その場合には、今回の研修で学んだ接し方、関わり方を活かして対応したいと思います。

私は、救急係の仕事がしたいと考えています。その中で、障害を持つ方に関わるという場面もあると思います。その場合には、今回の研修で学んだ接し方、関わり方を活かして対応したいと思います。



佐藤 夏稀
由利本荘市消防本部

あきた病院は重度の障害をもった患者のいる病院ということで、どのような設備が整えられているのかと、思いながら実習へと臨んだ。

今回の研修は、重症心身障害児病棟と神経筋疾患病棟と二つに分けて行った。私は、神経筋疾患病棟の中にある筋ジストロフィーという病気の患者さんがいる所での研修であった。筋ジストロフィーは、筋肉が徐々に硬直していく病気であった。症状

は様々で、足のみの方もいけば指先以外硬直してしまった方もいた。

様々な患者さんがいたが、一人一人に対応した車椅子があったりナースコールがあった。中でもナースコールの呼び方で、ボタンを押して呼ぶ以外に指と指の間にセンサーを入れて呼ぶ方法や、息を吹きかけて呼ぶなどがあることに驚いた。ナースコール以外に、トイレやお風呂にも患者さんに配慮した設備があった。

今回の研修で学んだことは、声をかけることの重要性であった。声をかけることで、患者さんも安心していった。声を出すことは、消防士である自分たちにも共通していることである。訓練でも、一つ一つの動作において声を出している。今回の研修を通して、改めて声を出すことの重要性を感じた。今後活かしていきたい。



宮本 海青
鹿角広域行政
組合消防本部

今回のあきた病院での研修を体験させていただき、とても貴重な体験ができ、充実した気持ちでいっぱいでした。

あきた病院の看板や建物をよく目にするのですが、どのような病院なのか全く知りませんでした。それが

今回このような形で訪問することに、研修をずっと楽しみにしていました。

研修では、倫理や重度障害者への理解などの説明を聞いた後、重症心身障害者の方がいる病棟を見学し、障害物走に交せてもらい患者さんと一緒に楽しく楽しみました。車椅子を押しながら声をかけましたが、患者さんによつて表情が豊かな人もいれば、読みづらい人もいて大変でした。しかし、そんな患者さんに絶えず話しかけ、些細な変化を見逃さず意思を読み取っている看護師さんの姿を見て、感服しました。

周囲への心配りができ、どんな相手ともコミュニケーションを取り、複雑で大変な勤務体制でも手を抜くことのない、看護・介護のプロとしての意識の高さを目の当たりにして、見習うことがいくつもあり、多くの刺激を受けることができました。今回得た経験をいつか発揮できるよう忘れず、心にとめておこうと思います。身になる研修ができ、感謝の気持ちでいっぱいです。



小林 敬介
能代山本広域市町
村圏組合消防本部

今回、あきた病院で様々なことを見学・体験させていただき、とても

貴重な経験をすることができました。

まず驚いたのが、車椅子の人でもエレベーターを簡単に利用できる工夫をしていたことです。床に数字があり、その上に乗ったり踏んだりすると、高い位置のボタンを押さなくても利用できるのは、とても便利でよい設備だと感じました。

筋ジストロフィーの患者さんは、長期の入院をすることになります。私が一般に思い描いていた入院とは全く別の形態でした。

入院とは言うものの、そこには生活があります。日々過ごす中で暇になることは多いと思いますが、ゲームをしたりコーヒを飲んだりカラオケをしたりと様々な設備があり、患者さんのトレーニングにつながる遊びをしていると感じました。

車椅子には、患者さんに合わせた作りがされていたり、入浴時にはミストでの入浴があったりと生活しやすいものでした。また、看護師さんの負担を減らすためのリフトやスライディングボードなど、腰痛防止としてとても良いことだと感じました。

患者さんとの接し方を見て、将来自分が救急隊として傷病者と接する際に参考になりました。この経験を、これから先の消防人生に活かしていこうと思います。



伊藤 快
男鹿地区消防本部

私は、あきた病院での研修を終えて、今まで知らなかったことをたくさん知り、感じる事ができました。その中でも一番大事だと思ったことは、気持ちで伝えるコミュニケーションです。最初に、重症心身障害児病棟を訪れたときに思ったことは、自分の言葉を相手にしっかりと伝えて、理解してもらえらるうかという不安です。

いざ実習が始まると、私自身が緊張してしまい、上手く言葉を伝えることができませんでした。ですが、看護師の方々が企画してくれた、絵しりとりや物語作りなどで、患者の皆さんと打ち解けることができました。

その時のコミュニケーション方法が、自分が一方的に話すのではなく、相手に理解してもらえらるように、ジェスチャーをしたり、手を軽く握ったりと、体と気持ちを使う方法でした。それによって、全ての言葉や思いが伝わったか分かりませんが、相手をしてくれて、笑顔を見せてくれたので、とても嬉しかったです。

今回の実習で学んだコミュニケーションの方法をこれからの消防活動に活かす、様々な人たちと関わっていきたいです。



伊藤 孔明
大曲仙北広域市町
村組合消防本部

私は、これまで筋ジストロフィー、結核、重症心身障害者、神経難病といった難病の患者さんと向き合ってきたことがあります。理由は、自分とは全く関わることはない世界だと思っていたことや、そうした方に興味を持つことは失礼だと心のどこかで思っていたからです。

もしも自分が難病だったら、それを想像した時に、明るく振る舞う自分のイメージはまったく浮かびません。他人と違う、それだけで自分とすれ違う人に好奇の目で見られると思います。そのうち、外出するのが嫌になってくるだろうなという考えでした。

しかし、私が伺った病棟の方は、我々からしたら不自由であろう車椅子を自由に操り、聞けば「北海道に行ってきた」や「東京のライブを見に行った」等、それまでのイメージよりもずっとアクティブに人生を楽しんでいました。
今回の患者さんのような方達とも今後接する機会はずあるので、今回のように実際の状況を学べたことが、自分にとって一番よいことでした。

次世代型消防についての 研修会を実施します

今年、消防職員が消火活動中に殉職する痛ましい事故が発生しました。地域防災力の強化が課題とされているなか、災害現場で活躍する者の安全をいかに確保するか、たいへん重要な課題です。
こうした課題について認識を深め、今後の消防団活動の活性化に役

立てるため、研修会を企画しました。

当日は、防災専門家による講演やドローンを活用した消火実験の見学などを予定しています。
是非、ご参加くださるようご案内いたします。

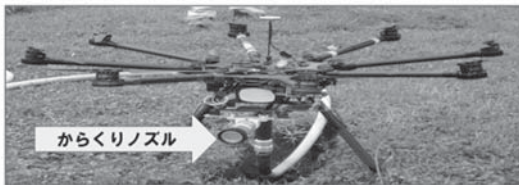
日時 令和元年九月一四日(土)
十時から十二時まで
場所 仙北市西木町松木内字吉田
西木総合健康増進センター

次世代型消防についての研修会

◇勉強会日時・場所
日 時: 令和元年9月14日(土) 10:00~10:25
場 所: 秋田県仙北市西木町松木内字吉田123
西木総合健康増進センター 終了後見学
主 催 一般財団法人 秋田県消防協会 (会 長 中田 潤)
共 催 秋田県仙北市 (市 長 門脇光浩)
研修会
講演者 岩手県立大学ソフトウェア情報学部「ドローンプロジェクトチーム」
(ソフトウェア情報学部 教授 馬淵浩司)
講演者 防災アナリスト(元・東京消防庁消防官 金子富夫)
支援企業 株式会社 ケーエスケー(代表取締役 楠 健治郎)
支援企業 株式会社 近代消防社(代表取締役 三井 栄志)

秋田・仙北市から「ドローン消火」世界発信！！

「からくりノズル」搭載ドローン活用
消火 & 雪害(雪おろし)対策等実証実験



からくりノズル
実施主体: (一社)日本ドローン協会東北統括部

実証実験名称
「からくりノズル」搭載ドローン活用・消火及び雪害(雪おろし)対策等

実証実験日時・場所等
日 時: 令和元年9月14日(土) 10:30~12:00
場 所: 秋田県仙北市西木町松木内字吉田123
西木総合健康増進センター(吉田野球場)
活用機材: E616ドローン(小型からくりノズル搭載)・関連資機材
新型消防用可変ノズル(KSファイヤー-KS19-8XP)
小型からくりノズル (KSファイヤー-KS13-7T)

モリタ消防ポンプ シバウラポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献！

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)
猿田興業ビル3F FAX 018 (824) 3651

支部情報アラカルト

「学生機能別団員の入団」

五月二十七日(月)、能代市役所において能代市消防団「学生機能別団員」入団式が行われました。

能代市消防団条例の一部改正に伴い機能別団員の任用資格が拡大され、学生機能別団員として今年度から新たに秋田しらかみ看護学院の女子学生二四人が任命されました。

近年、消防団の充実強化に向けた様々な取組が行われる一方で、消防団員数は年々減少傾向にあります。



このような中、能代市では学生が特定の消防団活動を行う「学生機能別団員」を新たに設置しました。主な活動内容は、指定緊急避難所等における避難所運営の補助や、啓発活動、防災教育、防災訓練への参加等としており、「自分たちの地域は自らで守る」という精神に基づき、学生消防団員として、その能力やメリツトを生かしながら時間の許す範囲で活動するものです。

今後、長期的に消防団員を確保していくためには若い人材の確保が重要であり、学生等の若者が消防団活動に参加し関心を持つことによることが期待されます。



火災の発生状況(速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	令和元年		平成30年			同期比較	
	7月	累計	7月	累計	年計	7月	累計
建物	9	109	9	89	166	0	20
林野	3	29	1	13	14	2	16
車輛	2	15	4	24	39	- 2	- 9
その他	5	73	6	49	72	- 1	24
合計	19	226	20	175	291	- 1	51
死者数	0	12	1	11	18	- 1	1
負傷者数	5	44	5	28	46	0	16



(情報提供) 能代山本郡支部

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター
消防被服全般
秋田県代理店

株式会社 高義商会

- (営業種目) トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕力ギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880
FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シバラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp